医療ルネサンス　№7232　Q&A 新型コロナウイルス　1/6

狭い空間での会話避ける

国内で感染が広がりつつある新型コロナウイルス。多くの人にとっては風邪、けれども一部は重い肺炎を起こし、時に命に関わる。二面性を持つウイルスにどう対処すればよいのか。基本情報をおさらいする。

通常の風邪は、鼻の奥やのどにウイルスが付いて、増殖する。一方、同じコロナウイルスの一種が起こすSARS（重症急性呼吸器症候群）は、呼吸器の奥深くでウイルスが増え、重い肺炎を起こす。

今回の新型コロナウイルスは、その両方の性質を持つ。大多数の人は、発熱やせきなど風邪のような症状が出て自然に治るが、ウイルスが肺に入り込んで重症化する人もいる。

中国の患者約5万6000人の分析では、14％が重い呼吸困難などを起こし、6％は重篤な症状に陥るとしている。死者数が突出する武漢市を除くと、致死率は0・7％という。

感染経路は主に、せきやくしゃみから出たしぶきを吸い込む「飛沫感染」と、しぶきがついた手すりやドアノブなどを握り、その手で口や鼻、目を触り、体内に入る「接触感染」だ。

気になるのが、無症状の人からの感染だ。海外の研究では、5分間話すと、せき1回分のしぶきが飛ぶとの報告がある。

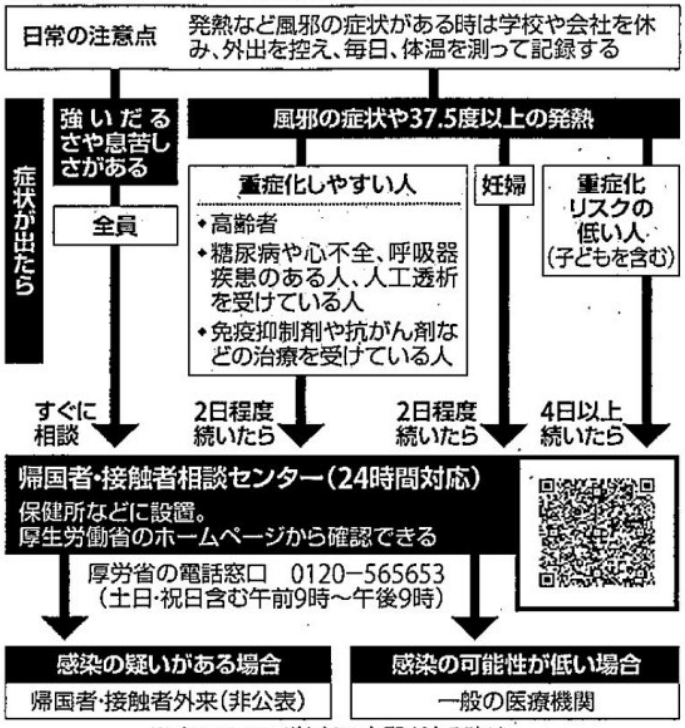
川崎市健康安全研究所長の岡部信彦さんは「経験上、無症状の人からの感染リスクは低いが、まだはっきり分かっていないことが多い」とした上で、「狭い空間で顔をくっつけるように話したり、互いに手を伸ばしたら届くような距離で長い時間おしゃべりをしたりするのは、避けた方がよい」と指摘する。

発熱やせきといった症状は、インフルエンザより長く続く傾向がある。また、強いだるさや息苦しさがある人がいるのも特徴だ。

厚生労働省は、一般の人について、相談や受診の目安を示している（図）。インフルエンザなどの心配があれば、待たずに、かかりつけ医に電話などで相談するよう、呼びかけている。

（このシリーズは全6回）

新型コロナウイルス感染症の相談・受診の目安



※インフルエンザなどの心配がある時は、通常と同様に、かかりつけ医などに相談